

## 信楽高原鉄道事故から27年 事故を心に刻み、安全を誓う

1991年に信楽高原鉄道とJR西日本の列車が正面衝突した事故から5月14日で27年になるのを前に、京都地本執行部、地本青年女性委員会をはじめ30名は5月11日に、現地の犠牲者追悼慰霊碑において慰霊行動を行なった。

あらためて、事故でお亡くなりになられた方々のご冥福を、お祈り申し上げるとともに、事故を心に刻み安全を誓った。

今年も、事故を知らない青年女性委員会のメンバーが参加し事故の教訓を次代に伝えた。

松井地本青年女性委員長は「実際に事故現場へ訪れ、事故を決して忘れない、風化させないことが非常に大切だと思う。二度とこのような悲惨な事故を起さないと胸に刻みました。」と話した。



献花後には、信楽高原鉄道の前田常務取締役より事故当時の状況や事故の原因について説明を受け、「ルールを守ることの大切さや、安全を最優先に考え一つ一つの作業を確認することの必要性、事故から27年がたち様々な環境の変化がある中でどのようにして事故を風化させないように取り組んでいくか。」等について講話をいただいた。



## 乗務員区所分会合同 中央本部オルグ

京都地本は5月15日(火)、草津まちづくりセンターにおいて「乗務員区所分会合同 中央本部オルグ」を開催した。地本内の各乗務員区所分会の役員55名が参加し、民主的労働運動・組織の充実や強化等について講義を受けた。

中央本部から里内副委員長にお越しいただき、「崩壊するJR東労組」と題して特別講義をいただいた。

JR東労組については、現場で働く組合員がスト権の行使について疑問に感じ、その姿勢にもうついていけないと、4月1日までの2カ月間に約2万9千人の組合員が脱退したとみられることが20日、JR東日本会社への取材で分かった。

現在の組合員数はJR東日本会社全社員の半数を割っていると推測され、スト実施を一時検討した組合への反発が広がったことが原因とみられる。



特別講義の中では、JR東労組で発生している問題からの教訓や労働運動のあり方や労働運動の継承について説明を受けた。

その後、京都地本の現状と地本大会で確認された運動方針を共有した。

役員の新旧交代が進む中、多くの分会でJR世代が分会役員の中核を担って頂いている今日、受講者たちは真剣に耳を傾けていた。



里内副委員長

## 中央本部綱引き大会出場!

5月17日(木)、18日(金)の2日間、鳥取県米子市民体育館でJR西労組中央本部主催の「第10回綱引き大会」が開催された。各地方本部からは12チーム140名が参加し熱戦を繰り広げた。

京都地本からは、予選を勝ち抜いた「京都電車区分会」が出場した。

競技は1チーム8名(体重640kg以下)のミドル級で行われ1試合3ゲームの総当たり戦、マッチポイント制で競われた。

京都電車区分会は、結束して力を合わせて1日目に4勝3敗と勝ち越し、2日目に望みを繋げた。2日目は強豪揃いの対戦相手となったが熱戦を繰り広げた。

京都電車区分会の2日間合わせての結果は、5勝6敗勝ち点14点の順位は7位と健闘した。

2日間の総当たり戦のハードな大会であったが出場したメンバーは全試合全力で戦いぬいた。参加した選手は、日頃接点の少ない各地方本部の仲間との交流を深めることができた有意義な大会となった。



本部大会に出場した京都電車区分会のメンバー♪